

礼拝

令和6年6月10日
2号



一、掃除 二、勤行 三、学問

～中間考査と振り返って～

今年度初めての定期考査が終わり、その結果等をもとに個人面談が進んでいるかと思えます。点数という結果は大事な要素ですが、それとともに振り返ってもらいたいことの一つに「環境」と言う要素があります。テストまでの勉強方法や時間の取り方、勉強をしている場所やまわりの状況などを思い出してみましよう。勉強をするのに適した環境だったでしょうか。

さて、僧侶の生活の基本を表した「一掃除、二勤行、三学問」という言葉があります。朝起きたらまず掃除をして、ゴミを払うように身と心を清めさない。そして身を整

えてから勤行（お経を称えること）をして仏さまへの帰依をあらわし、最後に正しい教えの理解を深めるために学問をしなければ、というように、すべきことの順序を表した言葉です。つまり、すべてのことに優先して、まずは環境を整えなさい、ということですね。

インドの古い言葉で書かれたお経のひとつに「撰集百縁経」というものがあり、その中に、掃地五徳というお話があります。

インドの舎衛国（しゃえいこく）で、祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）というお寺を寄進した須達（スダッタ）は、毎日欠かさずお寺の掃除しました。あるとき、商用でしばらく家を空けることになり、その間お寺の掃除ができませんでした。何日か過ぎるとお寺が汚れてきたので、お釈迦さまは弟子たちと共に掃除をされ、その後、「掃地（掃除）には五つの功德（くどく）」よいことをした後に訪れる幸福がある」ことをお説きになりました。

「掃地の五徳」

- 一、自除心垢 自らの心の垢（あか）を除く
- 二、亦除他垢 亦（また）他の垢を除く
- 三、除去憍慢 憍慢（きょうまん）を除去す
- 四、調伏其心 その心を調伏（ちようぶつ）す
- 五、増長功德得生善処 功德を増長し、善処に生まるるを得

掃除をすることによって、その場所がきれいになるだけではなく、自分の心の垢（欲）がとれるということです。自分の環境は他の人の環境でもありませんから、美しく掃除されたようすは周りの人の心もさわやかにしてくれます。また、一所懸命に掃除するとき、得意になつてうぬぼれ（慢）たり、他と見比べてうぬぼれる（慢）憍慢の心は洗い流され、自然と謙虚な心が芽生えます。客を迎えるとき、その前準備として掃除をします。その掃除は、決してお客様に見てもらいたいの行いではないからこそ、憍慢を除いていくのです。一所懸命に掃除をする、自分の乱れた心を抑制し、荒れようとする心にブレーキをかけてくれます。ダラダラと掃除しては、その効果は期待できませんが、心を込めた掃除はもはや、わたし自身を掃除してくれていると考えることができます。そして、掃除はその人に、優れた結果をもたらす能力（功德）を養い、幸せな将来を約束する力を持っていると説かれています。

掃除をすれば表面的、あるいは直接的な効果を得ることはできません。しかし、そののみを考えるのではなく、掃除のもたらす本質的な功德をよく理解して、内外共に美しい環境をつくっていきましよう。